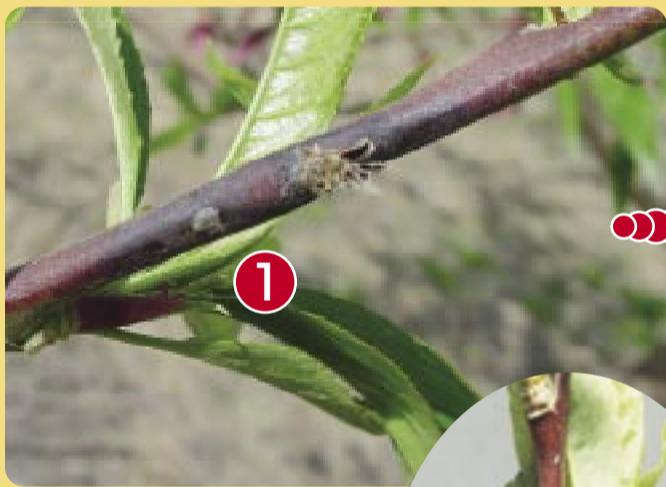


モモせん孔細菌病の 防除を徹底しましょう!

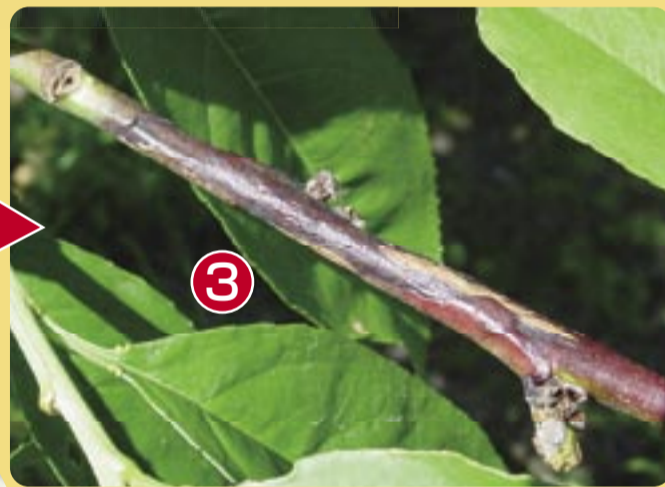
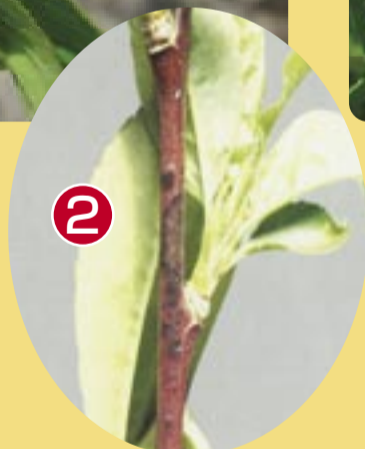
本病は細菌（バクテリア）による病害で、モモのほかにスモモやアンズにも発生します。薬剤散布により完全に防除することは困難であるため、耕種的防除（伝染源の除去、防風ネット等の設置）や肥培管理（適正な樹勢の維持）をあわせて実施する必要があります。

第一次伝染源となる春型枝病斑（スプリングキャンカー）を見つけ、除き、本病の防除を的確に実施しましょう。

春型枝病斑の診断法



初期症状
4月下旬～
5月上旬



拡大症状
5月上旬以降



診断のポイント

せん孔細菌病の春型枝病斑は、開花期から落花期頃にやや隆起した紫黒色の病斑(①、②)となり、その後病斑が拡大すると、健全部との境に亀裂が入りかいよう状(③、④)となります。

ホモプシス腐敗病は病斑部に黒色小粒点(⑤)を、灰星病は胞子の塊(⑥)を生じますが、せん孔細菌病の春型枝病斑は生じません。

他の病害の枝病斑



ホモプシス腐敗病



灰星病